



新型コロナ
アンケート

寄せられた実態・声をもとに 広島市長に要望書提出

31項目

6回目の 申し入れ

医療体制の確立について

- ◆病床の確保と、感染者用の集中治療室を増やすこと、人工呼吸器などの医療器械の整備を行うこと、マスクだけでなく、ガウンやゴーグルなど医療者を守るための防護資材を十分に確保すること。
- ◆感染者を受け入れる病院に対して、待機する病床への補償を行うこと。
- ◆一定の区域ごとに、発熱外来を設置し、市民に広報することで、一般の医療機関を守り、症状のある人がスムーズに受診できる体制をつくること。
- ◆市民病院の感染病棟で最前線で奮闘している医療従事者には、思い切った危険手当をまた、希望者には専用の宿泊施設を提供すること。
- ◆今回の感染拡大で、特に公立病院、公的病院の重要性が明らかになった。政府が進める公立・公的の424病院の統廃合方針に断固反対を表明されること。

検査体制の抜本的な拡充について

- ◆保健所を通さずにPCR検査を進める体制を整備すること。それにより、保健所は、感染拡大防止やクラスター対策に専念できるようにすること。
- ◆短時間で結果が出る検査キットの導入に取り組み、抗体検査を推進すること。

事業者への支援について

- ◆固定費のうち、最低限、家賃の補助を行うこと。
- ◆発表の場がなくなった文化活動関係者、イベント関係者に対して、生活支援や活動支援を行うこと。
- ◆飲食店がテイクアウト・宅配に参入する場合や新商品開発をすすめるための経費を補助すること。
- ◆雇用調整助成金の複雑な手続きの相談に応じる窓口を設置し、社会保険労務士など専門家を配置すること。
- ◆新規事業者や減収が5割に満たない事業者を対象とした給付金制度を独自に創設すること。



財政局長に申し入れ書を手渡す 5月15日

市民のくらしの支援について

- ◆税金の減免や国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療の保険料と窓口負担の減免を行うこと。
- ◆市独自に、自営業者も国民健康保険の傷病手当金支給の対象にすること。
- ◆ひとり親家庭の多くが不安定な就労である中、学校の休業で給食が提供されず、子ども食堂も休止しているため、家計の支出が増加している。こうした世帯への特別の支援金を支給すること。
- ◆アルバイトがなくなり苦境に立たされた学生に対する市立大学独自の支援策に対して広島市として補助を行うこと。また、新型コロナの影響で休学を希望する学生について、休学を認めること。休学中の授業料も免除すること。
- ◆生活保護利用者への特別定額給付金は、手続きをしなくても、保護費に上乗せして支給すること。

医療、介護、障がい者福祉事業の支援について

- ◆高齢者・障害者のデイサービスの代替えとして、利用者への訪問活動をする場合の経費（人件費を含む）を助成すること。合わせて感染忌避による利用者の減少で大幅な収入減が見込まれる中、事業を継続できるよう補助すること。
- ◆感染弱者といわれる高齢者・障害者・子ども等の社会福祉・保育施設で、感染の危険の中で使命感をもって働いている従事者に特別手当を支給すること。特に、感染者の世話をしている見真学園の従事者には、体制上の支援とともに早急な手当てを行うこと。
- ◆医療的ケア児が感染した場合は、母子同伴の入院ができるようにしておくこと。

その他

- ◆保護者が感染した時の児童の緊急一時保護ができるようにすること。
- ◆指定避難所へのマスク・消毒液の備蓄をすすめること。感染防止に配慮した避難ができるよう避難所のあり方について、検討し早急な対策に取り組むこと。
- ◆夏休み期間中に給食を提供する場合、スポットクーラー設備しかない給食調理室で調理作業をする給食調理員は過酷な環境での調理を強いられ、熱中症が頻発する危険性がある。給食調理室に早急に冷房設備を整備すること。
- ◆危険を承知で業務に従事しているごみ収集の現場作業員を守るため、必要な防護資材を確保し配布するとともに、事業者には従事者への必要で十分な対策を行うよう指導すること。